

## 3年 音楽 音楽で届けよう！ふるさと二川への想い（俳句）をメロディにのせて

### 1 題材構想文

#### 題材目標

- ・和声進行や音のつながり方などの音楽的根拠に基づいて、和声進行のパターンから歌詞の抑揚や聴かせどころポイントを意図した旋律の動きやリズムでマイメロディをつくることができる（知識・技能）
- ・言葉のもつイメージや聴かせどころポイントなど、中学生の心にヒットするマイメロディをつくり、その表現方法について思いや意図をもつことができる（思考・判断・表現）
- ・届けたい意思に適した旋律の動きに関心をもち、聴く側を意識したマイメロディづくりを目ざし、試行錯誤しながら作品をつくりあげようとする（主体的に学習に取り組む態度）

#### 題材について（下線：主なでだて）

本学級の生徒は、「」」「・」（ステキ・）「♪・♪♪」（ハッスル）など、リズムに合う言葉や文章を考える活動を通じて創作活動への関心を高めた。また、「滝廉太郎がしかけた音楽の秘密を探ろう～『花』～」では、楽譜の中に隠された作曲者の意図を考えたところ、「言葉の抑揚やイメージに合わせた音の高さやリズムを工夫してマイメロディをつくってみたい」という思いをもった。本校では、配膳準備、昼休み開始、清掃前後に次の行動を促す音楽とアナウンスが流れてくる。聴く側の立場で考えられた曲が選択されていると感じさせる。本題材では、新型コロナウイルス感染防止のため、味気ない昼食時を過ごしている中学生に楽しんでもらおうと、マイメロディづくりを試みる生徒の姿を目ざす。

「負けないぞ！おかわりじゃんけん ジャンケンポン」のような俳句を活用したマイメロディづくりは、8小節という条件があるためメロディづくりに困り感が生まれ、旋律づくりにおいて必要なプロセスや技法への関心が高まる教材だと考える。また、俳句のイメージに合う和声進行を選択し、その構成音から旋律をつくるという新しい創作技法は、生徒がさまざまな和声進行パターンを試し、よりよいマイメロディづくりに向かわせるのに有効である。

見いだす段階では、「よりよい学校生活」の視点から会食中に流れる音楽とアナウンスに問いをもつ生徒が作画した4コマ漫画を提示する場を設ける。会食中に流れる音楽は、聴く側の受け取り方を意識していない一方通行のリクエスト曲が多く、鑑賞後のメッセージは「いい曲でしたね」の一言で終わってしまうことが多い。このことについて会食中の生徒の心に響くのかを問い、創作のテーマを「会食中の中学生の心にヒットするマイメロディ」とする。まずは、会食中の生徒の心に響く5・7・5の俳句をつくり、2小節のマイリズムづくりに個々に挑戦させていく。いくつかのマイリズムができてくれば、音の高さや旋律にこだわりたいという思いも高まるであろう。そこでヒット曲を比較鑑賞し、「大ヒットした超有名な曲に共通する秘密は何だろう」と問いかけ、秘密を探るヒントを提示する。生徒は、音と音のつながり方やリズムによる反復と変化などの音楽的構造にもその秘密があるのではないかと追究を始める。ここで教師は、ヒット曲にはパターン化された和声進行があることに気づいた生徒の意見を取り上げ、調べた曲と和声進行のパターンをいくつか提示するよう促す。多くの生徒は、カノン進行やボーカロイドコード進行を使い、「中学生の心にヒットするマイメロディをつくるにはどうすればよいか」と追究を進めるだろう。解き明かす段階では、8小節のマイメロディづくりを進めていく。教師は、いくつかの和声進行をいつでも聴いて確かめられるよう、音声データや必要な和声進行のパターンを楽譜に示したワークシートを準備して生徒の追究を支えていく。また、つくったマイメロディを音で試しながら追究が進められるようミニキーボード（タブレット）も準備する。自分が意図するメロディかを何度も確認する生徒の中には、本当にこれで自分の意図は伝わるのかという不安を抱く生徒もいるであろう。聴いてもらう側にも伝わるかを確認する場を設定し、非和声音を使用した旋律の動きに修正したいと考えた生徒を意図的に指名し、ヒットする和声進行の旋律と比較鑑賞して気づいた非和声音の存在を、楽譜に矢印やマークで視覚化して説明するよう促す。そして、マイメロディを聴く側の立場で見直し、作品の完成度を上げていく。更に、動きだす段階では学校生活の中でマイメロディが最も役立ちそうな放送場面はないかと考える場を設定する。お昼の放送の生徒会ラジオコーナーの場を借り、「これはヒットするだろう」と選ばれる作品づくりを目ざし、仲間の作品と一緒に歌ったり、和音伴奏を音楽アプリでアレンジしたりして、マイメロディを披露する姿が見られることを期待したい。

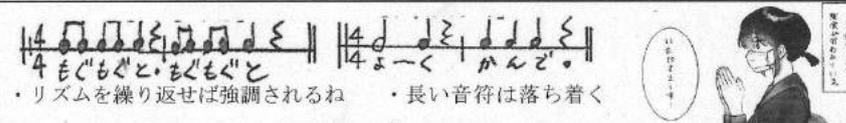
## 2 題材構想図

### 題材前の生徒の姿

言葉の抑揚やイメージに合わせた音の高さやリズムを工夫してマイメロディをつくりたいという創作活動への関心が高まっている。

### 身につけさせたい3つの力

- ・会食中の生徒の心情に響くメロディにするための秘密を解き明かそうと動きだすことができる (問いを生む力)
- ・ヒット曲の和声進行から音の高さを選び、よりよいメロディづくりをしようと再考することができる (考えを深める力)
- ・よりよい学校生活をめざす中で音楽が役立ちそうな場面と提供の仕方を考えようとしている (学びを行動に移す力)

| 過程                              | 生徒の思い・考え   | 力を高めるためのでだて  |                       |       |        |                   |                     |                        |                       |
|---------------------------------|--|--|-----------------------|-------|--------|-------------------|---------------------|------------------------|-----------------------|
| 見<br>い<br>だ<br>す<br>段<br>階      | <p>5文字の歌詞で2小節のマイリズムづくりに挑戦してみたい ① A</p>  <p>・リズムを繰り返せば強調されるね ・長い音符は落ち着く</p>   | <p>A : (浸り場：問いを生む)<br/>                     中学生の心にヒットする音楽を提供したいという意図や思いがもてるよう、会食中に流れる音楽に問いをもつ生徒が作製した4コマ漫画劇場を鑑賞する場を設ける</p>              |                       |       |        |                   |                     |                        |                       |
|                                 | <p>大ヒットした超有名な曲に共通する秘密は何だろう ②③ (本時) B</p> <p>♪昭和のヒット『翼をください』 ♪平成のヒット『恋のフォーチュンクッキー』 ♪令和のヒット『うっせえわ』</p> <table border="0"> <tr> <td>&lt;歌詞&gt;</td> <td>&lt;旋律&gt;</td> <td>&lt;リズム&gt;</td> <td>&lt;和声進行&gt;</td> </tr> <tr> <td>・印象深い言葉が胸に響いて感動する</td> <td>・音のつながり方が跳躍するところが素敵</td> <td>・繰り返すと3回目の変化が期待を裏切らないぞ</td> <td>・ヒットする和声進行のパターンがあるらしい</td> </tr> </table> | <歌詞>   | <旋律>                  | <リズム> | <和声進行> | ・印象深い言葉が胸に響いて感動する | ・音のつながり方が跳躍するところが素敵 | ・繰り返すと3回目の変化が期待を裏切らないぞ | ・ヒットする和声進行のパターンがあるらしい |
| <歌詞>                            | <旋律>   | <リズム>  | <和声進行>                |       |        |                   |                     |                        |                       |
| ・印象深い言葉が胸に響いて感動する               | ・音のつながり方が跳躍するところが素敵  | ・繰り返すと3回目の変化が期待を裏切らないぞ   | ・ヒットする和声進行のパターンがあるらしい |       |        |                   |                     |                        |                       |
| 解<br>き<br>明<br>か<br>す<br>段<br>階 | <p>【問題】中学生の心にヒットするマイメロディを作るにはどうすればよいか ④⑤⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句を並べただけじゃうまく8小節分に言葉がはまらない</li> <li>・同じ言葉を繰り返したり、リズムを拡大・縮小をしたりして変化させるとよさそう</li> <li>・音の高さはどうやって選択したらよいか</li> <li>・歌詞の抑揚を視覚化しておけば旋律作りにかせそう</li> </ul>   | <p>C : (浸り場：考えを深める力)<br/>                     和声進行やつくったマイメロディをいつでも聴いて確かめられるよう、音声データや必要な和声進行のパターンや和音を楽譜に示したワークシートやタブレットを活用できる場を提示する</p> |                       |       |        |                   |                     |                        |                       |
|                                 | <p>聴いてもらう人にも思いが伝わる旋律の動きになっているのかな ⑦⑧ D</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞に込められた気もちの高まりを上向き矢印線で、最も高まるのは★印で表すとわかりやすい</li> <li>・言葉を強調したいところは音の長さや高さを工夫することができそう</li> <li>・和音構成音から音の高さを選んだら跳躍進行ばかりで音と音のつながりが感じられないぞ</li> <li>・隣り合う音同士に変化させる非和声音を選んで順次進行を使えば、なめらかなメロディができあがりそう</li> </ul>  | <p>D : (着火：考えを深める力)<br/>                     非和声音を使用した旋律の動きに修正したいと考えた生徒を意図的に指名し、比較鑑賞から気づいた非和声音の存在を、楽譜上にマークなどで視覚化して説明するよう促す</p>         |                       |       |        |                   |                     |                        |                       |
| 動<br>き<br>だ<br>す<br>段<br>階      | <p>旋律の動きに表した自分の意図が伝わるようにマイメロディをつくったよ たくさんの人に聴いてもらいたいな ⑨⑩ E</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上行形や跳躍する旋律の動きを使えば、気もちの高揚を伝えられそう</li> <li>・長い音符でゆったり感を出せば、下校時刻を知らせるための、リラックスマード音楽ができそう</li> <li>・受験勉強にはこのペンがオススメな感じで、宣伝効果をねらったCMソングの動画制作にも挑戦してみよう</li> </ul>   | <p>E : (浸り場：学びを行動に移す力)<br/>                     マイメロディを聴いてもらいたい思いが高まるよう、学校生活の中で音楽が役立ちそうな場面はないかを考える時間を設定する</p>                          |                       |       |        |                   |                     |                        |                       |

### 未来を創造しようとする動きだす生徒の姿

言葉（歌詞）の抑揚や和声進行から旋律を創作し、伝えたい気もちの高まりを旋律の動きに生かし、伝えたい曲の魅力表現できるようにする。また、仲間の工夫点やアドバイスから自分の作品を見つめ直し、客観的に自分の演奏を振り返る活動を行い、よりよいマイメロディをつくりあげる。完成したマイメロディを仲間と共に演奏・録音し、よりよい学校生活のために提供していこうと、母校二川中に足跡を残す姿。

### 3 見いだす段階のてだて(浸り場・着火)と生徒 a の問題意識の高まりについて

#### 単元前の生徒 a の姿

- ・生活が楽しくなるような曲をつくってみたい思いはあるが、楽曲分析や鑑賞では、自分の聴き方や考え方を音楽の根拠に基づいて相手に伝わるよう説明することが苦手である

題材の導入では、給食の BGM として二中学生の心にヒットする音楽を提供したいという意図や思いがもてるよう、会食中に流れる音楽に問いをもつ生徒が描いた4コマ漫画劇場【資料1】を鑑賞する場を設けた(てだてA:浸り場)。生徒 a はその考えに共感した。そして、黙食中でも音楽を楽しんでほしい思いを「かすかに鳴る・響く恋歌と・そしやく音」という歌詞に込めた。マイリズムづくりでは、同じ言葉でも、リズムを変えれば言葉のもつイメージが大きく変化することに気づいた。気持ちの高まりをそしやく音で繰り返し表現した、短い音符のリズム(そしやく音!そしやく音!)など。マイリズムづくりに十分浸った生徒 a は、マイメロディづくりへの意欲を高めた。そして、ヒット曲に共通する秘密は何だろうという問いをもち、世の中でヒットしている楽曲への興味をもち始めた。生徒 a は、中毒性のある歌詞やリズムが共通する秘密だと考えていた。教師は、和声進行の和音から音の高さを選ぶ技法に気づけるよう、パターン化された和声進行があると気づいた生徒の意見を取り上げ、調べた曲や和声進行のパターンをいくつか提示するよう促した(てだてB:着火)。話し合い後の振り返りに生徒 a は、「和声進行からメロディをつくる技法があることを知った。生徒の心に響く中毒性のある曲をつくりたいから、おしゃれで独特な雰囲気をもつ丸サ進行でマイメロディをつくりたい」と記入し、問題意識を高めることができた。そして、『二中学生の心にヒットするマイメロディをつくるにはどうすればよいか』という問題が生まれた。



#### 4 解き明かす段階の2つのてだて(浸り場・着火)の検証

##### (1) 浸り場のてだてについて

#### 見いだす段階での生徒 a の姿

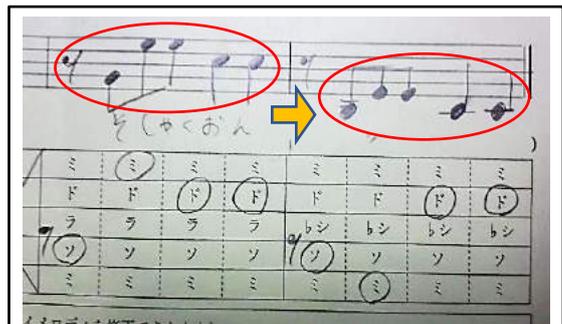
- ・「おしゃれで独特な雰囲気をもつ丸サ進行でマイメロディをつくりたい」という思いをもっている

#### てだてC (浸り場:考えを深める力)

- ・さまざまな和声進行やつくったマイメロディをいつでも音で聴いて試したり、確かめたりして追究がすすめられるよう、タブレットの MuseScore3 ソフトを活用できる場を設定する

生徒たちは歌詞・リズム・音の高さなどの視点から、MuseScore3 を活用して8小節のマイメロディをつくる個人追究を始めた(てだてC:浸り場)。生徒 a は、恋する気持ちに胸を躍らせ、自分のそしやく音を高らかに鳴らす姿を思い、歌詞とリズムに表現していた。「簡単にマイメロディができそう」という生徒 a であったが、高さ選びには、苦勞しているようであった。「そしやく音」という歌詞の部分を、おしゃれに、かつ、ミステリアスな雰囲気で心に響くようにしたいけれど、同じリズムを繰り返しただけでは変化が少なくしてしっくりこない。どうすればよいかと。そこで教師は、生徒 a に「音読してみたら何かアイデアが浮かぶのでは」と、助言した。生徒 a は、1回目と2回目のそしやく音のリズムは変えず、音の高さをオクターブ低く変えることで、そしやく音の存在感をより強調するようにした【資料2】。そして、「そしやく音が心地よく響くメロディができた。でも、前半後半が同じ感じになるので、後半部分をもう少し変えてみたい」と振り返りに記録した。

つくったマイメロディを、選択した和声進行に合わせ何度も再生したり、リズムや音の高さをワークシートで確認したりする教材に浸る機会を設定したてだてCは、個人の課題を解決したり、確かめたりするうえで有効であり、考えを深める力の高まりが感じられた。



【資料2】生徒 a のマイメロディ (第6時)

## (2) 着火のてだてについて

### 教材に浸った生徒 a の姿

『二中学生の心にヒットするマイメロディをつくるにはどうすればよいか』という問い対して、「そして音心地よく響くメロディがくれた。でも、前半後半が同じ感じになるので、後半部分をもう少し変えてみたい」という考えを構築した。

### てだて D (着火:考えを深める力)

・考えを深めることができるように、「非和声構成音を使用した旋律の動きに修正したい」と考えた生徒を意図的に指名し、比較鑑賞から気づいた非和声音の存在を、楽譜上にマークなどで視覚化して説明するよう促す



第8時では、聴いてもらう人にも思いが伝わる旋律の動きになっているかについて個人追究をもとに話し合った【資料3】。生徒 a は「和声構成音なら、心地よくきれいなメロディが簡単につくられた」と発言した。生徒 a と同様に自己満足している生徒は少なくはなかった。そこで非和声構成音を使って、より自分の思いを旋律の動きに表現しようと考えている生徒 c を指名し発言を促した(てだて D:着火)。「和声構成音ではないけど非和声構成音を使ってみた」という生徒 c の発言をきっかけに、生徒たちは恋するフォーチュンクッキーのメロディを和声構成音だけでつくったとしたらどうなるか、と偽恋チュンと恋チュンの比較鑑賞を行った。その後生徒 a は、非和声構成音をところどころに使っては旋律の動きを何度も確かめていた。そして振り返りには、「非和声構成音

生徒 b : 和声構成音でメロディをつくるとまとまり感がある。  
生徒 a : 和声構成音なら、心地よくきれいなメロディが簡単につくられた。

教師 : cさんは、どう思っているのかな。

生徒 c : 和声構成音だけだと、使える音が限られているので大変。私は終わる感じを出すため、和声構成音ではないけど非和声構成音の「下」を使ってみた。

教師 : なるほど。やるしかなかったんだね。では聴いてもらう人にも思いが伝わる旋律の動きになるのか比較してみよう。



(和声構成音だけの偽恋チュン) 非和声構成音がある恋チュン

教師 : どうだろう。

生徒 a : 偽恋チュンと本物の恋チュンはぜんぜん違うメロディだ。

生徒 d : 隣り合う音で使うとおしゃれな感じがする。

生徒 e : 跳躍ばかりしていたところに非和声構成音をつかえば、なめらかな感じがだせそうだ。

【資料3】問題「聴いてもらう人にも思いが伝わる旋律の動きになっているのか」についての話し合い(第8時)

【資料4】生徒 a の修正したマイメロディと振り返り(第8時)

のレを入れたことで、和声構成音だけでは表現できない音の深みを出せた」と述べた【資料4】。新たな考え方を取り入れ、マイメロディを見つめ直そうとする生徒 a の変容が感じられた。

他の生徒たちも「隣り合う音で非和声構成音を使うとおしゃれな感じになる」と語り、和声構成音だけでなく、非和声構成音を利用すると旋律の動きがなめらかな感じやおしゃれな感じになると非和声構成音の存在意義を共有することができた。これらのことから、非和声構成音に目を向けた生徒の意見を取り上げたてだて D は有効であり、考えを深める力の高まりが見られた。

### 5 動きだす段階のてだて(浸り場)と未来を創造しようと動きだす生徒の姿について

題材の終末に、教師は互いのマイメロディを聴き合い、学校生活の中で音楽が役立ちそうな場面はないかを考える場を設定した(てだて E:浸り場)。生徒 a は、仲間のマイメロディを聴いて「音域の変化が大きくて、二分音符の部分がのびやかで幸せという歌詞をゆったり表現している素敵なメロディ。思いの詰まったメロディは、会食中の二中学生にヒットすると思う。生徒会ラジオで紹介する形であれば、みんなのマイメロディを利用できるのではないかと振り返りに書いた。生徒 a は、個人追究から創作についての知識を得たり、友達の見解を踏まえて表現したい思いを旋律の動きにどうかかわらせるかについて考えを深めたりしたことがわかる。そして、よりよい学校生活するために音楽を役立てたい、また生活に生かしたいと考えていることがわかる。

### 未来を創造しようと動きだす生徒 a の姿

「思いの詰まったメロディは、二中学生の心にヒットする。生徒会ラジオで紹介する形で披露すれば、みんなのマイメロディを利用できるのではないかと自分の考えを構築し、よりよい学校生活のために音楽を提供していこうという思いをもつことができた。